

我が子を「自立した社会人」に育てるには「脱「過干渉」」

NPO法人コチカラニッポン 代表 川島 高之



かわしま たかゆき
1987年に慶応大学卒業、三井物産に入社。上場会社社長を4年間務め、2016年にフリーランサーに。元祖イクボスとしてNHK「クローズアップ現代」で特集され、雑誌『AERA』では「日本を突破する100人」に選出された。

我が子に過干渉や過支配になってしまいう気持ちは、僕も親の一人として痛いほどわかります。だからさうならないために、「子育て四訓」をいつも気にするようになっています。

＜子育て四訓＞

- 1 乳児はしっかりと肌を離すな。
 - 2 幼児は肌を離せ、手を離すな。
 - 3 少年は手を離せ、目を離すな。
 - 4 青年は目を離せ、心を離すな。
- ところが、実践するのは難しいことです。こんなことはないでしょうか？

- ・子どもの習い事や受験先を、全て親が決めている。
- ・学校から出された宿題を、直ぐに親が手を出してしまふ。
- ・子どもの顔を見るたびに、成績のことやグチグチ叱ってしまふ。
- ・子どもが答えるまえに、親が矢張り早く意見を述べてしまふ。
- ・過干渉になって子どもはびびるようになってしまう。
- ・子どもが欲しがらぬものを何度も返せばいいから欲しがらぬものがないのと同じに見える。更には欲しがらぬものがないのと同じに見える。

てしまふ。すると子どもは、太って動けなくなったトフのようになってしまいます。子どもがちょっと出来ないと直ぐ手を出すと、少しでも困っていると早々に助けてしまふ。すると子どもは、エサを待つだけの口を空けたペンギンのようになってしまいます。

子どもは、塾や習い事で超多忙。しかもそれらは全て親が決めた(選んだ)こと。すると子どもは、疲れ果てたワンちゃんのようになってしまいます。

子育て・子ども教育の目的は、「子どもが自立した社会人になる」ため。そして自立とは「自らの力で生活をし、社会に貢献し、幸せな人生を送る」こと、つまり「自分で立つて歩く」ことです。

過保護のために太り過ぎたトラは、獲物を獲る力がありません。

過干渉のために口を空けただけのペンギンは、手を動かさずじまふ。過支配のために疲労困憊したワンちゃん、栄養剤が欠かせななります。

親の過干渉・過支配が、子どもをひびきこもり、依存症、摂食障害などにして

しまふというデータもあります。また、成長するに従い子どもは「健全な反抗」を示し、「自治領域」を広げようとし、そのことで脳や精神が自動的に成長していくわけですが、親が過干渉・過支配してしまふと、子どもは親に反抗できなくなり、自治領域を拡大できず脳を自分で成長させる機会を失ってしまいます。

では、どうすればいいのか？
そこで、僕がPTAや少年野球のコーチで経験してきたことと、会社社長として心がけている部下育成法からの共通項を、「過干渉からの解放」としてまとめてみました。(子ども教育やスポーツ指導と、部下の育成、原則は同じ)

- ① 勉強やスポーツ、片付けなどで、**子どもに完璧を求めない**ようにする。
 - ② 着る服から受験校に至るまで、最後は**子どもに選択させる**。
 - ③ 家事や炊事など、**子どもに家庭内の役割を持たせる**。
 - ④ 役割を終わらせた後、**マナーを守った**のなら、**子どもを褒める**。
 - ⑤ 子どもが何かで手こずっていても、**出来る限りの手を貸さず待ち続ける**。
 - ⑥ 子ども部屋やスマホなど子どもに何かを与える場合、**義務と責任を教える**。
 - ⑦ 子どもに指導する際、「**しちゃダメ**」より「**したほうがいい**」とする。
 - ⑧ 子どもが何歳まで何が出来るべきかという話を、**親は気にしない**。
 - ⑨ 「勉強しろ」ではなく、「**じつじつなじごとがあるよ**」と教えてあげよう。
 - ⑩ 子どもに、**将来の夢やなりたいことを自由に話させ**、否定したりしない。
 - ⑪ 子どもを、**他人の子と比較し過ぎない**。
 - ⑫ **親は自分の基礎を持ち**、それをフラスコで、**弟々と子どもに見せ話そう**。
 - ⑬ 子どもを**自分のための**ためなら、**親は自分のプライドを捨てよう**。
 - ⑭ 親は、仕事や地域活動等にも精を出し、**エネルギーを子どもに集中させない**。
 - ⑮ **笑っている親**である。
 - ⑯ 以上、いかがでしょうか？
- みなさん、我が子の自立をハハハしながら見守りましょう。その「見張る」のではなく「見守る」のです。